

# デジタルリテラシーの調査結果から見る子ども・教師・教員 養成学生の共通点と差異

A Report on Similarity and Difference of Action of Media Use among Child, Teacher,  
University Student based on the Result of Investigation of Digital Literacies

小柳 和喜雄  
Wakio Oyanagi

奈良教育大学大学院教育学研究科  
Graduate School of Professional Development in Education, Nara University of Education

< あらまし > 本発表は、情報モラル教育に関わって、デジタルリテラシーの視点からアプローチを試みようとする基礎研究に位置づく。中学生、現職教員、学生（教員養成の学生）のメディア利用行動とそれに対する意識（何を大切にしているかなども含む）を、デジタルリテラシーの先行研究から質問紙を構成し、結果を分析した。その結果、3者に共通する点と差異から、情報モラル教育に向けたアプローチ（これまでの多様で膨大な情報教育アプローチと共通する点と視点を少し変えたアプローチの両方）を述べる。

< キーワード > デジタルリテラシー 情報モラル 現職教育 教員養成 言語活動

## 1. 本報告の位置と目的

生活環境・メディア環境が変化し、子どもたちのリテラシーが変わってきていると言われている。学校で身につけるリテラシーと、学校外で子どもたちがメディアなどの影響から用いているリテラシーが複雑に絡み合い、学校のリテラシー教育へその影響が現れてきている。このような中で、教師は、子どもたちが学校外で身につけているリテラシーにも目を向け、学校で求められるリテラシーの習得との関わりを考え、内容と方法の検討をしていくことが求められてきている(小柳 2008, 2009)。

このようなメディア環境の変化と子ども・学校・家庭の変化に関わって、すでに様々なメディア利用行動の実態調査、意識・見方考え方・知覚特性などに関する調査、実践の報告に関する調査などが行われ、学校レベルで、教員養成レベル、現職教育レベルで、その対策も検討されてきた(石川 2006, 田井志・阿濱 2006, 衛藤・今田・鈴木 2007, 辻・葉田・西森ほか 2007, 後藤 2008, 小林・藤村 2009, 杉本・堀田・石原ほか 2009, 横山 2009, 文部科学省 2010)。

そこで本報告では、それら先行研究を参考

にしつつも、中学生・現職教員・教師を目指す学生のメディア利用行動とメディア利用に対する意識の類似点と差異をより詳細に捉えるために、同一質問紙によって行われた実態調査の結果(小柳 2010)を分析し、上記のように言われている内容を事例の中で確かめることにした。つまり、「教員養成の学生と現職教員が、子どものデジタルリテラシーの状況を把握できる経験を有しているかどうか」実態調査を通じて状況を把握する。そして、教員養成の学生と現職教員が「学校で身につけるリテラシーと、学校外で子どもたちがメディアなどの影響、およびそのリテラシーが複雑に絡み合い、学校のリテラシー教育へその影響が現れてきていることを把握できる状況にあるかどうか」を見ることを目的する。

## 2. 実態調査の結果の概要

このたびは、公立の都市部にある適正規模の中学校1校(男子 255 名, 女子 247 名, 計 502 名: 詳細は表 1 参照: 調査は 2009 年 11 月に悉皆調査を学校に依頼した。回収率 93%; インフルエンザの影響により調査時に欠席者がいたため), 国立大学法人教員養成大学 3 年生 88 名(男性 45 名, 女性 43 名: 20

から 22 歳：調査は 2009 年 6 月，同大学内小中学校の免許取得希望者 3 回生に講義内で依頼し，終了後回収ボックスで回収をした．回収率 55%），そして A 県の小中高の現職教員 324 名（男性 115 名，女性 209 名：詳細は表 2 参照：調査は 2009 年 6 月の更新講習（共通必修科目）に参加された教員全員に講習内で依頼し，講習後，回収した．回収率 99%）に調査協力を得て，質問紙調査を行った．質問項目は自由記述の項目も含めて以下の問いを尋ねた．

表 1 中学校の調査協力有効回答数と属性

	中1	中2	中3	全体
男	98	69	88	255
女	83	77	87	247
全体	181	146	175	502

表 2 現職教員の調査協力有効回答数と属性

	30歳代	40歳代	50歳代	全体
男	17	32	66	115
女	40	59	110	209
全体	57	91	176	324

「日ごろよく使っているものはどれですか？」「あなたが家でコンピューターを使い始めたのはいつ頃からですか？」「あなたが携帯電話を使い始めたのはいつ頃からですか？」「あなたは家でどのくらいコンピューターを使っていますか？」「あなたは家でどのくらいインターネットを使っていますか？」「あなたは，1 日どのくらいコンピューターを使っていますか？」「あなたは，1 日どのくらいインターネットを使っていますか？」「どんな目的でコンピューターを利用していますか？」「あなたは携帯電話を持っているか（中学生のみ）」「あなたにとって携帯電話は必要か」（中学生のみ）、「あなたのコンピューターの利用スキル（技能）は？（中学生除く）」「あなたはコンピューター利用をどのように学んでいますか？（中学生除く）」「どんな目的で携帯電話を利用していますか？」「あなたにとってコンピューター、インターネット利用は重要ですか？」「あなたにとって携帯電話は重要ですか？（中学生のみ）」「インターネットや携帯電話を用いたネットコミュニケーションで日ごろ気をつけて

いる工夫はあるか？（中学生のみ）」「インターネットや携帯電話を用いたネットコミュニケーションで「いやな思い」をしたことがあるか？（中学生のみ）」「教師として勤めている場合，デジタル技術の利用は重要だと思いますか？（中学生除く）」「インターネットや携帯電話を用いたネットコミュニケーションの特長や方法を学ぶことは，教師にとって必要だと思いますか？（中学生除く）」「インターネットや携帯電話を用いたネットコミュニケーションの特長や方法を学びたいですか（中学生のみ）」「あなたの今のデジタル技術进行操作する力は，教育者・教師としての力として適切だと思いますか？（中学生除く）」

表 3 携帯電話所持率（中学）

	持っている	持っていない	答えられない	無回答
中1男	30%	64%	4%	2%
中1女	34%	64%	0%	2%
中1全体	31%	64%	2%	2%
中2男	33%	62%	4%	0%
中2女	48%	49%	0%	3%
中2全体	41%	55%	2%	1%
中3男	58%	38%	5%	0%
中3女	61%	36%	2%	1%
中3全体	59%	37%	3%	1%
中男全体	40%	55%	4%	1%
中女全体	48%	49%	1%	2%
中全体	44%	52%	3%	1%

表 4 携帯電話の利用のスタート時期（中学）

	幼保から	小低から	小中から	小高から	中学初め	わからぬ	無回答
中1男	1%	0%	7%	15%	7%	1%	68%
中1女	0%	8%	11%	11%	7%	0%	63%
中1全体	1%	4%	9%	13%	7%	1%	66%
中2男	0%	3%	3%	10%	17%	3%	64%
中2女	0%	9%	6%	16%	17%	0%	52%
中2全体	0%	6%	5%	13%	17%	1%	58%
中3男	1%	3%	3%	14%	35%	0%	43%
中3女	0%	2%	11%	26%	20%	1%	39%
中3全体	1%	3%	7%	20%	27%	1%	44%
中男全体	1%	2%	5%	13%	20%	1%	58%
中女全体	0%	6%	10%	18%	15%	0%	51%
中全体	0%	4%	7%	16%	17%	1%	55%

表 5 1 日の携帯電話の利用頻度（中学）

	数分	1時間	数時間	使っていない	その他	無回答
中1男	12%	2%	12%	8%	2%	63%
中1女	16%	8%	13%	2%	2%	58%
中1全体	14%	5%	13%	6%	2%	61%
中2男	10%	6%	14%	3%	4%	62%
中2女	12%	8%	23%	0%	5%	52%
中2全体	11%	7%	19%	1%	5%	57%
中3男	19%	13%	16%	6%	8%	39%
中3女	14%	10%	30%	6%	5%	36%
中3全体	17%	11%	23%	6%	6%	37%
中男全体	14%	7%	14%	6%	5%	55%
中女全体	14%	9%	22%	3%	4%	48%
中全体	14%	8%	18%	4%	4%	51%

「デジタル技術を操作する力を、授業実践の中に生かしていきますか？(中学生除く)」である。

表 6 携帯電話必要度(中学)

	必要	必要でない	答えられない	無回答
中1男	39%	39%	8%	14%
中1女	43%	31%	14%	11%
中1全体	41%	35%	11%	13%
中2男	49%	29%	16%	6%
中2女	61%	17%	13%	9%
中2全体	55%	23%	14%	8%
中3男	55%	18%	17%	10%
中3女	62%	18%	9%	10%
中3全体	58%	18%	13%	10%
中男全体	47%	29%	13%	11%
中女全体	55%	22%	12%	10%
中全体	51%	26%	13%	10%

表 7 携帯電話は重要度(中学)

	大変重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない	無回答
中1男	7%	28%	18%	13%	34%
中1女	14%	31%	28%	10%	17%
中1全体	10%	29%	23%	12%	26%
中2男	17%	32%	22%	12%	17%
中2女	26%	31%	14%	5%	23%
中2全体	22%	32%	18%	8%	21%
中3男	17%	35%	23%	5%	20%
中3女	26%	26%	22%	6%	20%
中3全体	22%	31%	22%	5%	20%
中男全体	13%	31%	21%	10%	25%
中女全体	22%	30%	21%	7%	20%
中全体	18%	30%	21%	8%	22%

結果として、他の調査同様に、中学生の携帯電話保持率は、女子のほうが男子よりも多く、学年があがるに連れて保持率が上昇すること(特に中学3年生で:表3参照)、中学生の携帯電話の利用は、女子のほうが男子よりも早く小学校の高学年くらいからその動きが見られること(表4参照)、1日の携帯電話頻度も女子のほうが男子よりも多く、学年があがるにつれて増加も見られること(表5参照)、携帯電話の必要性感も女子のほうが男子よりも多く、学年があがるにつれて増加

表 8 ネットコミ上での問題

	ある	ない	答えられない	無回答
中1男	5%	86%	2%	7%
中1女	10%	78%	7%	5%
中1全体	7%	82%	4%	6%
中2男	10%	71%	9%	10%
中2女	19%	70%	5%	5%
中2全体	15%	71%	7%	8%
中3男	13%	73%	8%	7%
中3女	17%	74%	6%	3%
中3全体	15%	73%	7%	5%
中男全体	9%	77%	6%	8%
中女全体	15%	74%	6%	4%
中全体	12%	76%	6%	6%

も見られること(表6参照)、などが確認できた。また「自分にとっての携帯電話の重要度」については、男子よりも女子のほうが少し高いが、ほぼすべての学年において高く、中3の女子においてはかなりその重要度が高いことが確認できた(表7参照)。

一方で、情報モラルなどでよく取りあげられる、ネットコミュニケーション上の問題に関しては、問題に遭遇したことがないと答えている生徒が7割から8割いるが、その保持率を換算して結果を見た場合、遭遇している率を少ないと見ることは難しく、女子にその経験が多くあることが把握できる(表8参照)。

表 9 ネットコミュニケーションでの工夫

	ある	ない	答えられない	無回答
中1男	14%	55%	12%	18%
中1女	22%	58%	6%	14%
中1全体	18%	56%	9%	17%
中2男	9%	55%	14%	22%
中2女	19%	53%	17%	10%
中2全体	14%	54%	16%	16%
中3男	15%	55%	18%	13%
中3女	17%	59%	15%	9%
中3全体	16%	57%	17%	11%
中男全体	13%	55%	15%	17%
中女全体	19%	57%	13%	11%
中全体	16%	56%	14%	14%

そして、そのような自体にならないように日ごろからどのようにネットコミュニケーションの工夫をしているかどうかに関わっては、やはり保持率や利用頻度が高い女子の方が高く、自分なりに工夫をしている様子を伺うことができる(表9参照)。また、ネットコミュニケーションを効果的にしていくための学習に関するニーズとしては、全体としては多くはないが、保持率と関わって考えると、要求度は高い(表10参照)。その自由記述を見ると「危険な情報サイトに関する情報」ト

表 10 ネットコミ学習要求度

	非常に学びたい	学びたい	学びなくてもいい	答えられない	無回答
中1男	7%	22%	57%	5%	8%
中1女	1%	34%	53%	8%	4%
中1全体	4%	28%	55%	7%	6%
中2男	9%	16%	51%	13%	12%
中2女	5%	21%	58%	12%	4%
中2全体	7%	18%	55%	12%	8%
中3男	6%	16%	56%	11%	11%
中3女	5%	26%	55%	8%	6%
中3全体	5%	21%	55%	10%	9%
中男全体	7%	18%	55%	9%	10%
中女全体	4%	27%	55%	9%	4%
中全体	5%	23%	55%	9%	7%

ラブルにあったときの対処法（変なことを書かれたらどうしたらいいか、変なことを書いていたのを見つけたらどうしたらいいか、変な請求が来たらどうしたらいいか、など）、「効果的なネットの利用法」「便利なサイトに関する情報」など、危険回避への関心と、効果的な利用の関心が入り混じっていることが

わかった。また上記の結果のように、ネットコミュニケーションのための学習ニーズというよりも、ネット利用に関して、学習ニーズがあることがわかった。実際に、ネットコミュニケーション上の工夫に関しての自由記述欄には、その対応やどこから情報を得ているかに関わって、「相手に応じた言葉使い」「誤

表 11 中学生がよく使っているメディア（複数回答）

	携帯電話	デスクトップP	ノートPC	インターネット	ゲーム機	音楽プレーヤ	電子手帳	デジタルカメラ	その他
中1男	27%	30%	35%	61%	69%	47%	2%	7%	3%
中1女	39%	19%	31%	61%	58%	43%	5%	10%	2%
中1全体	32%	25%	33%	61%	64%	45%	3%	8%	3%
中2男	35%	23%	26%	57%	71%	48%	3%	4%	1%
中2女	49%	30%	39%	66%	43%	65%	10%	14%	0%
中2年在	42%	27%	33%	62%	56%	57%	7%	10%	1%
中3男	48%	26%	28%	59%	60%	55%	7%	7%	2%
中3女	61%	26%	41%	76%	24%	55%	6%	11%	1%
中3全体	54%	26%	35%	67%	42%	55%	6%	9%	2%
中男	36%	27%	30%	59%	67%	50%	4%	6%	2%
中女	50%	25%	37%	68%	41%	54%	7%	12%	1%
中全体	43%	26%	34%	64%	54%	52%	5%	9%	2%

表 12 コンピュータ・インターネットの利用目的（中学生：複数回答）

	SNS	ブログ	ネットショッピング	ゲーム	情報収集	チケット購入	文章記述
中1男	6%	9%	10%	34%	38%	4%	5%
中1女	5%	18%	6%	37%	40%	6%	7%
中1全体	6%	13%	8%	36%	39%	5%	7%
中2男	14%	9%	9%	32%	32%	7%	6%
中2女	19%	21%	19%	35%	45%	12%	8%
中2年在	17%	15%	14%	34%	39%	10%	7%
中3男	10%	9%	8%	24%	40%	2%	9%
中3女	8%	28%	9%	13%	52%	7%	14%
中3全体	9%	18%	9%	18%	46%	5%	11%
中男	10%	9%	9%	30%	37%	4%	7%
中女	11%	22%	11%	28%	46%	8%	10%
中全体	8%	7%	7%	18%	22%	5%	6%
	電子メール	音楽ダウンロード	映像視聴	CG制作	写真加工	動画編集	その他
中1男	9%	38%	34%	2%	6%	10%	5%
中1女	16%	25%	37%	6%	4%	4%	5%
中1全体	12%	32%	36%	4%	5%	7%	5%
中2男	12%	33%	35%	3%	7%	12%	1%
中2女	26%	48%	53%	3%	8%	6%	8%
中2年在	19%	41%	45%	3%	8%	9%	5%
中3男	14%	49%	33%	2%	3%	7%	5%
中3女	29%	28%	34%	2%	5%	2%	1%
中3全体	21%	38%	34%	2%	4%	5%	3%
中男	11%	40%	34%	2%	5%	9%	4%
中女	23%	33%	41%	4%	5%	4%	4%
中全体	9%	23%	20%	4%	6%	8%	5%

解されないように「絵文字の活用」など、「友達同士」で、「雑誌やテレビ」などからも情報を得て、誤解のないコミュニケーションを試みようとしていることがわかった。

また、少し広げて、日常よく利用しているメディアについて尋ねてみると、インターネット利用は、すべての学年で男女共に多く、携帯電話

表 13 携帯電話の利用目的（中学生：複数回答）

	電話	電子メール	写真撮影	映像視聴	プロフ	ブログ	ゲーム	WWW利用	SNS	その他
中1男	28%	21%	15%	8%	1%	3%	11%	4%	1%	4%
中1女	31%	42%	25%	7%	7%	7%	10%	13%	2%	7%
中1全体	29%	31%	20%	8%	4%	5%	10%	8%	2%	6%
中2男	36%	32%	29%	16%	1%	3%	16%	6%	4%	4%
中2女	44%	49%	35%	22%	10%	13%	13%	19%	6%	0%
中2年在	40%	41%	32%	19%	6%	8%	14%	13%	5%	2%
中3男	47%	48%	17%	18%	2%	2%	20%	13%	3%	5%
中3女	56%	57%	40%	16%	7%	15%	8%	26%	8%	1%
中3全体	51%	53%	29%	17%	5%	9%	14%	19%	6%	3%
中男	36%	33%	20%	14%	2%	3%	16%	7%	3%	4%
中女	44%	50%	34%	15%	8%	12%	10%	20%	6%	3%
中全体	21%	20%	13%	10%	4%	4%	11%	7%	4%	5%

の利用に関しては先にも述べたように女子に多く、特に中学3年の女子に多かった。ゲーム機に関しては、男子の利用が多いが、中学3年になるとその利用は減り、音楽プレーヤーなどの利用に移行していく傾向が見られた。Web2.0などの技術を用いた社会的ツールであるSNSやブログなどに関しては、全体としてそれほど大きな数字は出ていないが、2年時に一時的に高まる姿が見られ、その後落ち着いていく傾向が見られた。また女子には、ブログやプロフの利用の傾向が見られた(表11,表12,表13参照)。

続いて、教員養成学生及び現職教育のメディア利用行動を見てみる。

教員養成学生の場合も、女性の利用が早く、現職教員の場合も、年齢が高いほど、その利用スタート時期が遅くなることが確認できた。(表14,表15参照)

表14 教員養成学生の携帯電話利用時期

	小学校から	中学校から	高校から	大学から	わからない
教育大男	9%	36%	49%	7%	0%
教育大女	5%	51%	42%	0%	2%
教育大全体	7%	43%	45%	3%	1%

表15 現職教員の携帯電話利用時期

	使っていない	1年以内	2-5年以内	5-10年以内	10-15年以内	15年以上前
30歳代男	0%	0%	0%	24%	71%	6%
30歳代女	5%	0%	3%	43%	48%	3%
30歳代全体	4%	0%	2%	37%	54%	4%
40歳代男	3%	0%	13%	28%	41%	16%
40歳代女	2%	2%	10%	41%	44%	2%
40歳代全体	2%	1%	11%	36%	43%	7%
50歳代男	8%	2%	12%	32%	39%	8%
50歳代女	1%	1%	14%	55%	26%	4%
50歳代全体	3%	1%	13%	46%	31%	5%
男性全体	5%	1%	10%	30%	44%	10%
女性全体	2%	1%	11%	48%	35%	3%
全体	31%	28%	35%	49%	59%	34%

表18 教員養成学生のよく使っているメディア(複数回答)

携帯電話	デスクトップPC	ノートPC	インターネット	ゲーム機	音楽プレーヤー	電子手帳	デジタルカメラ	その他
99%	53%	73%	85%	48%	70%	24%	50%	0%

表19 現職教員がよく使っているメディア(複数回答)

	携帯電話	デスクトップPC	ノートPC	インターネット	ゲーム機	音楽プレーヤー	電子手帳	デジタルカメラ	その他
30歳代男	100%	82%	76%	94%	29%	18%	6%	94%	0%
30歳代女	97%	44%	79%	82%	10%	10%	8%	79%	3%
30歳代全体	98%	54%	79%	84%	16%	12%	7%	84%	2%
40歳代男	94%	75%	78%	81%	9%	25%	13%	75%	0%
40歳代女	97%	59%	76%	72%	9%	19%	9%	76%	0%
40歳代全体	96%	64%	78%	75%	10%	21%	10%	75%	0%
50歳代男	85%	77%	73%	77%	11%	15%	9%	62%	0%
50歳代女	96%	58%	72%	74%	11%	13%	20%	72%	0%
50歳代全体	92%	65%	73%	75%	11%	14%	16%	68%	0%
男性全体	90%	77%	76%	81%	14%	18%	10%	70%	0%
女性全体	96%	55%	75%	74%	10%	14%	14%	74%	0%
全体	94%	63%	75%	77%	11%	15%	13%	73%	0%

ネットコミュニケーションに関わって、その特性や方法を学ぶことについては、教員生の学生と現職教員の両方とも年齢や性別を越えてすべて高く、その意識の高さがわかった。

表16 教員養成学生のネットコミ必要性

	必要	あまり必要 と思わない	その他	無回答
教育大男	78%	20%	0%	2%
教育大女	65%	21%	7%	7%
教育大全体	72%	20%	3%	5%

表17 現職教員のネットコミの必要性

	大変必要	必要	あまり必要 ない	必要でない	無回答
30歳代男	65%	35%	0%	0%	0%
30歳代女	28%	73%	0%	0%	0%
30歳代全体	39%	61%	0%	0%	0%
40歳代男	28%	69%	3%	0%	0%
40歳代女	31%	64%	3%	0%	2%
40歳代全体	30%	66%	3%	0%	1%
50歳代男	26%	68%	3%	2%	2%
50歳代女	12%	79%	4%	0%	5%
50歳代全体	17%	75%	3%	1%	4%
男性全体	32%	63%	3%	1%	1%
女性全体	20%	74%	3%	0%	3%
全体	24%	70%	3%	0%	2%

(表16,表17参照)。さらに、子どものネットコミュニケーションに関わって、その実態を学ぶ必要性については、表16と表17の数字とほぼ同じ傾向を示し、全体としてさらに高い把握ニーズが見られた。

また、少し広げて、日常よく利用しているメディアについて尋ねてみると、携帯電話とインターネット利用が、教員養成学生と現職教員の両方共に高く、教員養成学生は音楽プレーヤー、現職教員はデジタルカメラの利用がそれに続いていた(表18,表19参照)。

その利用目的は、教員養成学生の場合は、コンピュータの場合は、情報収集、文章記述、SNS、携帯電話の場合は、電話、電子メール、写真撮影、WWW利用とSNSが続いた。予想通り、電子メールは、コンピュータというよりも携帯電話で受けているのがここからも明らかになった（表20、表21参照）。

現職教員の場合も、コンピュータの場合は、情報収集、文章記述、携帯電話の場合も、電話、電子メールと続いたが、教員養成の学生とは異なり、SNSなどの社会的ツールの利用

はあまり見られなかった。ただし、少ないが自由記述の中で、子どもの学習活動に関わって、協同学習などを大切にしたいと答えている教員は、利用経験や情報機器に関する自信に関わらず、社会的ツールの利用に関心を寄せたり、使っている傾向があることが読み取れた。しかし一方で、携帯電話やICTなどをよく利用していることが質問紙から読み取れる教員は、子どもが変わってきたことの問題性の指摘（ネット利用の問題性や不安の指摘、漢字がかけない、社会性の欠如などの指摘は

表20 教員養成学生のコンピュータ利用目的（複数回答）

SNS	V/R(セカンドライフ)	ネットショッピング	ゲーム	情報収集	チケット購入	文章記述	電子メール
51%	2%	34%	26%	70%	11%	63%	36%
音楽ダウンロード	映像視聴	CG制作	写真加工	動画編集	ブログ	その他	
39%	42%	9%	9%	8%	11%	1%	

表21 教員養成学生の携帯利用目的（複数回答）

電話	電子メール	写真撮影	映像視聴	スケジュール記入	ブログ	WWW利用	SNS	その他
98%	97%	47%	25%	22%	16%	39%	34%	2%

表22 現職教員のコンピュータ利用目的（複数回答）

	SNS	V/R(セカンドライフ)	ネットショッピング	ゲーム	情報収集	チケット購入	文章記述	電子メール
30歳代男	18%	6%	24%	12%	88%	12%	59%	41%
30歳代女	10%	3%	38%	5%	74%	15%	62%	28%
30歳代全体	12%	4%	33%	7%	77%	14%	60%	32%
40歳代男	13%	3%	22%	9%	94%	19%	84%	66%
40歳代女	12%	5%	22%	7%	69%	16%	47%	36%
40歳代全体	12%	4%	22%	8%	77%	16%	59%	46%
50歳代男	8%	5%	33%	9%	76%	23%	76%	50%
50歳代女	5%	0%	21%	8%	79%	17%	69%	22%
50歳代全体	6%	2%	26%	9%	77%	19%	71%	32%
男性全体	10%	4%	29%	10%	83%	20%	76%	53%
女性全体	8%	2%	24%	7%	74%	16%	60%	27%
全体	9%	3%	26%	8%	77%	17%	66%	36%
	音楽ダウンロード	映像視聴	CG制作	写真加工	動画編集	ブログ	その他	
30歳代男	12%	24%	6%	24%	24%	12%	0%	
30歳代女	10%	18%	5%	23%	5%	18%	3%	
30歳代全体	11%	19%	5%	23%	11%	16%	2%	
40歳代男	16%	28%	6%	19%	13%	3%	0%	
40歳代女	5%	10%	2%	28%	3%	2%	7%	
40歳代全体	9%	16%	3%	24%	7%	2%	4%	
50歳代男	8%	20%	3%	26%	11%	5%	12%	
50歳代女	6%	14%	4%	33%	3%	0%	5%	
50歳代全体	6%	16%	3%	30%	6%	2%	7%	
男性全体	10%	23%	4%	23%	13%	5%	7%	
女性全体	6%	13%	3%	29%	3%	4%	5%	
全体	8%	17%	4%	27%	7%	4%	6%	

表23 現職教員の携帯利用目的（複数回答）

	電話	電子メール	写真撮影	映像視聴	スケジュール記入	ブログ	WWW利用	SNS	その他
30歳代男	94%	100%	47%	24%	18%	18%	6%	12%	24%
30歳代女	92%	95%	51%	15%	13%	8%	15%	3%	3%
30歳代全体	93%	96%	49%	18%	14%	11%	12%	5%	9%
40歳代男	97%	88%	38%	6%	28%	3%	9%	3%	0%
40歳代女	98%	95%	45%	7%	16%	2%	5%	2%	0%
40歳代全体	98%	92%	42%	7%	20%	2%	7%	2%	0%
50歳代男	92%	85%	26%	5%	15%	3%	9%	2%	2%
50歳代女	95%	88%	39%	4%	15%	0%	1%	0%	3%
50歳代全体	94%	86%	34%	4%	15%	1%	4%	0%	2%
男性全体	94%	88%	32%	8%	19%	5%	9%	3%	4%
女性全体	95%	90%	42%	7%	14%	2%	5%	1%	2%
全体	94%	90%	39%	7%	16%	3%	6%	2%	3%

か)や、学力向上における ICT の活用の効果について、その期待を質問紙に記しているが、その教員が社会的ツールを利用したり、それへと関心を向けることはあまり見られなかった。ここから、教員の授業観や学力観が社会的ツールの利用などにも関わっていることが予想された(本調査の結果の中からしか言えないが、現職教員は、伝統的な教育活動に ICT などを効果的に位置づけ、利用していくことに関心があり、その経験や理解を越え、携帯電話や ICT を、社会的表現ツールとして利用していこうとする発想(調査から見えた子どもたちの嗜好や利用)とは現在のところ相容れにくい状況にあるかもしれないと予想された)。

先に、中学生の調査結果の中に見られたように、子どもの中で、学校外でのメディア利用(携帯電話など)は確かに進んできている。さらに SNS、ブログ、プロフなどの社会的なツール利用もなされてきていることを見てきた。また、利用者は、メールによるネットコミュニケーションの方法を色々学ぶことよりも、便利なサイトや社会的ツールネット利用、危険な携帯差異との情報やトラブルに巻き込まれたときの対象法を学ぶことを求めていることが明らかになった。

しかしながら、これまで見てきた調査結果に示されていたように、教員養成学生はその利用行動が社会的ツールなどにも関与していることがいくらか確認できたが、現職教員はその利用経験があまりないことが明らかになった。

以上のことから、中学生、教員養成学生、現職教員のメディア利用行動は、個人差や利用時間や頻度の差は当然あるにしても、携帯電話、メディア利用について、SNS、プロフ、ブログなどの社会的ツールの利用を除いて、現在の利用経験において大きな差があるわけではなかった。しかし、中学生と現職教員の間で異なるのは、まさに、この SNS、プロフ、ブログなどの社会的ツールの利用であり、情報モラル教育やデジタルリテラシーの教育を考えていく場合、今後1つのキーであることがより明確になった。

一方で、教員養成学生の場合も、その自由記述から、現在、自分流で SNS、プロフ、ブログなどの社会的ツールを利用しているが、ネットコミュニケーションに関して、指導をするという点に関わっては、自信がなく、どのように子どもたちに対応していったらいいかが不安という言葉が目立った。

また、電子メールなどでコミュニケーションをすること、WWW で情報収集などをする事と社会的ツールの利用の間には、少なからず壁があると感じている学生も多いことがわかった。大学の授業などで、Web ページ作成、電子掲示板の利用や情報共有ソフトを活用した授業なども経験していたとしても、それを社会的ツールの利用とつなげて考えることができず、学んだ(いる)ことと、それを教育活動の対象とすることをつなぐことができない様子も読み取れた。

これは、一方で大学の情報関係の授業で、その利用の仕方や作成の仕方は教えても、それをどのように教育の対象としていくかを教えていく活動に時間が取れていない、あるいはたとえ教えていたとしても、それを学生に意識化させる点でさらに工夫が求められていることが読み取れた。

### 3. 今後の課題

教師は、以上のような状況変化(調査結果)の中で、子どもたちが学校外で身につけているリテラシーにも目を向け、学校で求められるリテラシーの習得との関わりを考え、内容としてまた方法の検討をしていくことが求められてきている。

しかしながら、図1に示したように、これまで教員養成や現職研修で取り組んできたデジタルリテラシーに関わる取組は、ツールリテラシーにまず目が向けられ、その利用・操作についてのリテラシーの習得が求められた。次に、教科指導等、表象リテラシーと関わる部分について、教育・研修活動の注意が向けられ、どのように教科指導等に効果的に ICT 等をうまく活用していけるか、に目が向けられてきた。さらに最近では、情報を批判的に読み解いたり、多モードの表現活動を通じて、

表現力や、また制作者の立場に立つ目の育成なども試みられてきた。しかしながら、Web2.0の到来によって、「参加」「協同」「創発」「融合」「増殖」など、Webなどを使ったコミュニケーションに変化が見られ、それに伴いリテラシーにも変化が要求されてきた（New Literacy）。

そこで本報告では、中学校の子ども の状況を質問紙による実態調査を通じて、上記のように言われている現状を見つめると共に、教師を目指す学生（教育大学の学生）や現職教員が子どものデジタルリテラシーの実体を把握でき、指導できる経験を現在有しているかどうかに関わっても、同様に質問紙による実態調査を通じて明確にすることを試みてきた。以上、調査結果より明確になったことから、今後、教員養成や現職教員研修においては、情報モラル教育を考えていく場合には、広くデジタルリテラシーと関連付けて、New Literacyという視点もこのような課題に関わっていく場合、考えていく必要があると考えられる。

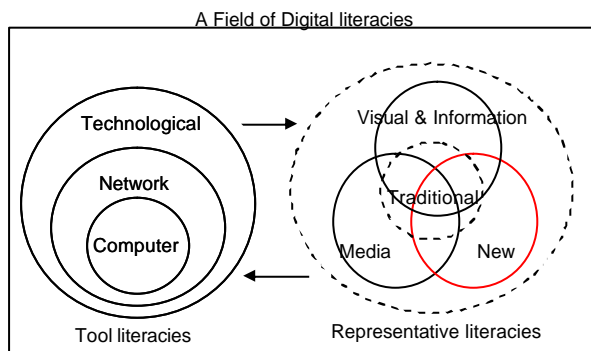


図1 教師に求められるデジタルリテラシー

#### 参考文献

衛藤敦, 今田晃一, 鈴木賢男 (2007) 教員養成課程における情報基礎教育のカリキュラムの検討: 自己診断テストの分析を中心として. 文教大学教育学部紀要 41, pp.117-128 .

後藤康志 (2008) メディア特性に対する先有知覚の小学生から大学生までの比較. 日本教育工学会論文誌 32(Suppl.), pp.61-64 .

石川勝博 (2006) メディア・リテラシー教育に対する教員の意識--日立市内の小中学校教員に対する調査結果の報告. 常磐大学 人間科学 23(2), pp.73-86 .

小林建太, 藤村裕一 (2009) メディア観に関する質問紙調査の分析と考察 (ICT の教育活用と授業設計/一般) . 日本教育工学会研究報告集 09(1), pp.315-322 .

文部科学省 (2010) 子どもの携帯電話等の利用に関する調査. 調査結果の概要(抜粋) (特集 2010 情報モラル教育 Now!!) . 道徳と特別活動 26(11), pp.32-36 .

小柳和喜雄 (2008) 学校外の子どものメディア利用を授業へ 組織化する方法に関する研究. 教育メディア研究 15(1), pp.29-40 .

小柳和喜雄 (2009) 現代の情報環境と子どもの言語指導. 日本教育方法学会編 教育方法 38 言語の力を育てる教育方法 . 図書文化, 東京. pp.113-120 .

小柳和喜雄 (2010) 教員と子どものデジタルリテラシーに関する実態調査. 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要 (19), pp.229-237 .

杉本圭優, 堀田龍也, 石原一彦 ほか (2009) 児童生徒・保護者・担任教員を対象とした児童生徒のケータイ所持と使用実態に関する調査(2) (ICT の教育活用と授業設計/一般) . 日本教育工学会研究報告集 09(1), pp.1-8 .

田井志保里, 阿濱茂樹 (2006) 教師のメディアに対する意識に関する基礎的研究--メディアに関する尺度構成と実態調査 (情報教育の実績と新しい展開) . 教育システム情報学会研究報告 20(6), pp.39-44 .

辻靖彦, 葉田善章, 西森年寿 ほか (2007) 大学生の PC や携帯電話などのメディア利用行動に関する調査--予備調査の実施と結果 (授業実践とメディア活用) . 日本教育工学会研究報告集 07(1), p.109-116 .

横山隆光 (2009) 学校を基盤とした体系的な情報モラル教育の試行: 中学校における生徒・教員・保護者の連携による事例研究. 教育情報研究 25(2), 23-29 .